

201421029B

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV感染症及びその合併症の 課題を克服する研究

平成24-26年度 総合研究報告書

国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS 先端医療開発センター長

白阪 琢磨

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究

平成 24-26 年度 総合研究報告書

国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS先端医療開発センター長

白阪 琢磨

目 次

■ 総括研究報告

- 1 HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究…………… 7
 研究代表者：白阪 琢磨（国立大阪医療センター HIV/AIDS先端医療開発センター）

■ 分担研究報告

- 2 急性感染期の診断・治療での課題に関する研究…………… 3 1
 研究分担者：渡邊 大（国立大阪医療センター 臨床研究センター エイズ先端医療研究部 HIV感染制御研究室）
- 3 HIV 陽性者の生殖医療に関する研究…………… 3 7
 研究分担者：久慈 直昭（東京医科大学 産科婦人科）
- 4 MRI 画像による、神経認知障害の神経基盤の解明に関する研究（平成 25、26 年度）…… 4 7
 研究分担者：村井 俊哉（京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座（精神医学））
- 5 抗 HIV 療法のガイドラインに関する研究…………… 5 3
 研究分担者：鯉渕 智彦（東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科）
- 6 HIV 医療の倫理的課題に関する研究…………… 6 1
 研究分担者：大北 全俊（東北大学 医学系研究科）
- 7 HIV 感染者の口腔内免疫に関する研究…………… 7 3
 研究分担者：吉村 和久（国立感染症研究所 エイズ研究センター）
- 8 HIV 陽性者の心理学的問題と対応に関する研究…………… 7 9
 研究分担者：仲倉 高広（国立大阪医療センター 臨床心理室）
- 9 HIV 陽性者の心理的負担、および精神医学的介入の必要性和ネットワーク形成に関する研究…………… 1 1 9
 研究分担者：廣常 秀人（国立大阪医療センター 精神科）
- 10 HIV 感染患者における透析医療の推進に関する研究…………… 1 2 7
 研究分担者：秋葉 隆（東京女子医科大学 腎臓病総合医療センター 血液浄化療法科）
- 11 病病・病診連携の地域モデルの構築…………… 1 7 3
 研究分担者：横幕 能行（国立名古屋医療センター 感染症科）
- 12 地域における HIV 診療および福祉連携のあり方に関する研究…………… 1 8 7
 研究分担者：高田 清式（愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター・感染症内科）
- 13 地域 HIV 看護の質の向上に関する研究…………… 1 9 3
 研究分担者：佐保美奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）
- 14 HIV 陽性者のセクシュアルヘルスの実態把握と支援方略検討…………… 2 1 3
 研究分担者：井上 洋士（放送大学 教養学部）

- 15 心理専門カウンセラーおよびピアカウンセラーの介入に関する研究…………… 2 1 9
研究分担者：藤原 良次（特定非営利活動法人りょうちゃんず）
- 16 当事者支援に関する研究…………… 2 3 3
研究分担者：桜井 健司（特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター）
- 17 青少年のメンタルヘルスと HIV 感染リスク行動に関する研究(平成 25、26 年度)…………… 2 3 7
研究代表者：白阪 琢磨（国立大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター）
研究協力者：星野 慎二（特定非営利活動法人 SHIP）
- 18 地域包括型 HIV 陽性者と薬物使用からの回復支援モデルの開発・実践(平成 26 年度)… 2 4 3
-HIV・薬物をテーマに Blending Communities をつくるしかけ-
研究代表者：白阪 琢磨（国立大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター）
研究協力者：榎本てる子（関西学院大学 神学部）
- 19 HIV 陽性者ケア等に関する NPO/NGO の連携に関する研究…………… 2 6 3
研究分担者：山崎 厚司/中村 正*（公益財団法人エイズ予防財団）*平成 24 年度を担当
- 20 長期療養患者のソーシャルワークに関する研究…………… 2 8 1
研究分担者：小西加保留（関西学院大学 人間福祉学部）
- 21 長期療養者の受け入れにおける福祉施設の課題と対策…………… 2 9 7
研究分担者：山内 哲也（社会福祉法人武蔵野会 八王子生活実習所）
- 22 長期療養看護の現状と課題に関する研究…………… 3 0 5
研究分担者：下司 有加（国立大阪医療センター 看護部）
- 23 携帯を使った服薬支援“だ・メール”および検査予約システムの開発…………… 3 1 5
研究代表者：白阪 琢磨（国立大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター）
研究協力者：幸田 進（有限会社 ビッツシステム）
- 24 Web サイトを活用した情報発信と情報収集、閲覧動向に関する研究…………… 3 2 3
研究代表者：白阪 琢磨（国立大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター）
研究協力者：湯川 真朗（有限会社 キートン）
- 25 「HIV 検査普及に対する意識調査」に関する研究…………… 3 3 5
研究代表者：白阪 琢磨（国立大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター）
研究協力者：谷口 公敏（株式会社 エフエム大阪）
- 26 血友病性関節症に対する間葉系幹細胞治療の開発(平成 24 年度)…………… 3 3 9
研究分担者：竹谷 英之（東京大学医科学研究所 関節外科）
- 27 HIV 陽性者の歯科診療の課題と対策(平成 24 年度)…………… 3 4 3
研究分担者：中田たか志（中田歯科クリニック）
- 28 神奈川県における検査と医療連携における NPO の役割に関する研究(平成 24 年度)… 3 5 1
研究分担者：井戸田一朗（しらかば診療所）

総括研究報告

1

HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究

研究代表者：白阪 琢磨（国立大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター）

研究分担者：渡邊 大（国立大阪医療センター 臨床研究センター エイズ先端医療研究部
HIV/感染制御研究室）

竹谷 英之（東京大学医科学研究所 関節外科）*

久慈 直昭（東京医科大学 産科婦人科）

村井 俊哉（京都大学大学院医学研究科 能病態生理学講座（精神医学））**

鯉渕 智彦（東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科）

大北 全俊（東北大学 医学系研究科）

吉村 和久（国立感染症研究所 エイズ研究センター）

仲倉 高広（国立大阪医療センター 臨床心理室）

廣常 秀人（国立大阪医療センター 精神科）

秋葉 隆（東京女子医科大学腎臓病総合医療センター 血液浄化療法科）

横幕 能行（国立名古屋医療センター 感染症科）

高田 清式（愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター・感染症内科）

佐保美奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

井上 洋士（放送大学 教養学部）

藤原 良次（特定非営利活動法人りょうちゃんず）

桜井 健司（特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター）

山崎 厚司**/中村 正*（公益財団法人エイズ予防財団）

中田たか志（中田歯科クリニック）*

井戸田一朗（しらかば診療所）*

小西加保留（関西学院大学 人間福祉学部）

山内 哲也（社会福祉法人武蔵野会 八王子生活実習所）

下司 有加（国立大阪医療センター 看護部）

*：平成 24 年度の研究分担者、**：平成 25 年度、平成 26 年度の研究分担者

本研究班では平成 24 年度から平成 26 年度の 3 年間、研究を行った。研究分担者は上記の通りである。以下、各年度毎に研究の概要を述べる。

平成 24 年度

研究目的

HIV 感染症は HAART によって医学的管理ができる慢性疾患となったが、HIV 感染症の治療の分野で克服すべき課題が山積している。本研究では平成 23 年度に改定されたエイズ予防指針の見直し作業班の報告に基づき、A. 治療・合併症、B. 地域の医療の質の向上、C. 陽性者支援のための地域連携、D. 長期療養支援に大別し、課題の抽出と解決方法の提示を目的とし、最終年度に対策と提言を目指す。

研究方法

目的達成のため今年度を実施した主な研究方法を次に示す。A-1. 急性感染期の診断・治療での課題に関する研究（渡邊）：急性期治療例における残存プロウイルス量の長期観察、A-2. 血友病性関節症に対する間葉系幹細胞治療の開発に関する研究*、\$（竹谷）：血友病患者細胞から誘導した骨髄間葉系幹細胞の in vitro での軟骨分化能等の検討、A-3. HIV 陽性者の生殖医療に関する研究*、\$（久慈）：精液中抗 HIV 剤等の測定および洗浄精液を用いた不妊治療の

事業化の検討、A-4. HIV 感染者の口腔内免疫に関する研究* (吉村) : 唾液のサイトカインや口腔病原微生物量の測定と口腔症状の関連性の解明、A-5. HIV 医療の倫理的課題に関する研究* (大北) : 課題把握のため海外ジャーナル等の文献調査および聞き取り調査の実施、A-6. 抗 HIV 療法のガイドラインに関する研究 (鯉淵) : 国内外の知見を基にガイドラインを改訂。B-1. HIV 陽性者の心理学的問題と対応に関する研究 (仲倉) : HIV 陽性者の神経心理学的障害出現頻度の調査継続と日常診療で実施できる簡便なスクリーニング検査の開発、B-2. HIV 陽性者の心理的負担、および精神医学的介入の必要性とネットワーク形成に関する研究 (廣常) : 初診 1 年後のメンタルヘルス調査の継続と課題の抽出および研修会参加者を対象としたネットワーク構築、B-3. HIV 感染患者における透析医療の推進に関する研究 (秋葉) : 拠点病院等を対象に透析医療の困難とサポート状況に関するアンケート調査の実施、B-4. 病病・病診連携の地域モデルの構築 (横幕) : 愛知県での拠点病院間での光回線を用いた診療連携にクリニックを加えた連携システムの構築、B-5. 地域 HIV 看護の質の向上に関する研究 (佐保) : 看護研修会の実施と院内研修向け教材の開発、B-6. HIV 陽性者のセクシュアルヘルス支援体制整備に関する研究 (井上) : セクシュアルヘルス研修会スキルアップコースの開発。C-1. 心理専門カウンセラー、ピアカウンセラーの介入に関する研究 (藤原) : 薬害 HIV 感染被害者の心理的現状把握のためのインタビュー調査準備とピアカウンセリングによる行動変容支援プログラム開発、C-2. 当事者支援に関する研究 (桜井) : 保健所等で発見された陽性者の受診行動の阻害因子と促進因子の解明およびマニュアル『HIV 検査相談要確認・陽性告知のポイント』の改訂、C-3. HIV 陽性者の歯科診療の課題と対策[§] (中田) : 歯科診療ネットワーク形成を目指した介入、C-4. 神奈川県における検査と医療連携における NPO の役割に関する研究*、[§] (井戸田) : MSM のコミュニティ形成の少ない地域での検査、啓発手段の開発と解決に向けた行政、医療機関との連携、C-5. HIV 陽性者ケア等に関する NPO/NGO の連携に関する研究* (中村) : NGO へのヒアリングとメーリングリストの運営。D-1. 長期療養患者のソーシャルワークに関する研究 (小西) : 精神疾患等の障碍陽性者

の生活課題をフォーカスグループインタビューなどによる解明、D-2. 長期療養者の受け入れにおける福祉施設の課題と対策 (山内) : 福祉施設の受け入れマニュアルを用いた研修会の実施および効果的研修プログラムの検討等、D-3. 長期療養看護の現状と課題に関する研究 (下司) : 訪問看護ステーション連絡協議会での訪問看護研修会の実施とメーリングリスト「i-net」の立ち上げ、D-4. 地域における HIV 診療および福祉連携のあり方に関する研究 (高田) : 地方の診療モデルとして、HIV 診療の充実および福祉連携に関し愛媛県および四国の HIV 診療の実態調査と具体的な問題点・改善策の検討。その他、携帯を用いた服薬支援ツールの改良および検査予約システム開発、HIV 治療の薬剤情報提供ホームページの開発。なお、今年度が初年度の研究に*を、当初の予定あるいは研究目標達成による終了研究には[§]を付した。

(倫理面への配慮)

研究実施で、疫学研究に関する倫理指針を遵守した。個人情報扱う研究では施設の倫理委員会の承認後に実施した。

研究結果

今年度の主な結果を以下に示す。A-1. 今年度、これまでの成果から、感染早期治療 1 例、慢性期治療 20 例の検体を採取し、残存プロウイルス量および APOB E type G-to-A 変異への影響につき解析中。A-2. 血友病患者の骨髄細胞から採取した培養細胞の増殖能力、表現型、軟骨細胞への分化能は、いずれも健常成人と差違が認められなかった。A-3. LC/MS/MS を用いた測定系を確立中であり、事業化は模索中である。A-4. 所属施設の倫理委員会で審査結果待ちである。検体からの標的菌の特異的定量法を開発した。A-5. 文献調査を進行中。生殖補助医療技術における倫理的配慮等につき聞き取り調査を行い倫理的課題などを抽出中。A-6. 国内外の知見と海外のガイドラインを参考に年度内に改訂。B-1. 大阪医療センターでは新規受診患者 428 名中 151 名に説明を行い 106 名に実施。他施設でも実施中。B-2. 初診 1 年後のメンタルヘルス調査で収集した 243 例につき解析中。昨年度作成のハンドブックを協力リストの施設および希望施設(計 430 施設)に配布し意見を回収予定。

B-3. 全国のブロック拠点病院・中核拠点病院・拠点病院を対象に透析医療に関するアンケート調査を実施した。回収結果から対応を検討の予定。B-4. クリニックのHIV診療医のニーズ調査を実施し、クリニックの通信環境調査と整備を終了した。今後、診療支援に使用し、効果を評価する。B-5. 大阪府看護協会と密な連携で、HIV看護研修を実施し、院内研修用の教材を開発した。B-6. セクシュアルヘルス研修会スキルアップコースの開発を進めた。C-1. 心理学者、社会学者を含むインタビュー調査委員会委員を選定中。行動変容支援プログラムを1例に実施中。C-2. 早期受診に繋がった事例とそうでない事例での早期受診の促進要因と阻害要因につき過去の症例から分析・検討作業を進め、10月より大阪のChotCastナンバで陽性告知直後でカウンセリングの担当症例等でも検討。『HIV検査相談要確認・陽性告知のポイント』マニュアルを全国の主な自治体、関連NGO(計142箇所)に送付し、意見を集約中。C-3. 今年度は、大阪府との歯科診療ネットワークにつき担当者と調整を行い、HIV歯科診療研修会の開催とネットワーク構築の端緒に繋がられた。C-4. MSMが検査を受けやすい環境整備と陽性判明後速やかに医療へつなげられる体制作りのため拠点病院や行政とのMSM連絡会議を開催し(参加:17名、情報・意見を交換した。C-5. 4NGOのヒアリングを実施し、10月からメーリングリストを立ち上げた。D-1. 精神疾患・障がいをもつHIV陽性者の生活課題を援助者への質的調査を通して探索的調査のフォーカスグループインタビューの質問項目の精査とインタビューの選定のため半構造インタビューを実施。D-2. HIV陽性者の受け入れマニュアルを用いた研修会を福祉施設向けに開催(9箇所、706名)した。福祉施設におけるHIV/AIDSの効果的研修プログラムの検討のため具体的事例からケースメソッド方式による教材を開発中。D-3. 各都道府県設置の訪問看護ステーション連絡協議会に研修企画案内を送付し各連絡協議会の定期的研修会等で当研究班の研修会の開催希望を募り3県(101名)で開催。i-netは29事業所が登録済み。HIV陽性者の介護経験のある介護士と未経験の介護士を対象にHIV陽性者受け入れで、知識の習得だけでは解決しない課題を明確にするため半構造的インタビュー調査を行った。介護支援

VTRを作成中。D-4. 県と連携し介護老人保健施設および介護老人福祉施設の感染対策担当者向けのセミナーを開催。その他、携帯を用いた服薬支援ツールの改良および検査予約システム開発、HIV治療の薬剤情報提供ホームページの開発を行った。

考察

指定研究の初年度であり主に調査や課題の抽出に取り組んだ。ガイドライン、マニュアル、ハンドブック等や支援の各種ツールは実施での評価と改訂を行う必要がある。その他、多くの研究から重要な結果を得た。

自己評価

1) 達成度について

当初計画を概ね実施でき目的を達成できた。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

本研究はHIV感染症の治療等で課題を明らかにし、その対策につき検討を行うものであり、必要性は高い。いずれも学術的意義も高く、国際的にも新規性が高い。治療のガイドライン改訂など、社会的意義も大きいと考える。

3) 今後の展望について

これまでの研究結果を踏まえさらに研究を深める。

結論

HIV感染症の治療と関連分野(治療・合併症、地域医療の質の向上、陽性者支援のための地域連携、期療養支援)で課題を抽出し、ほぼ計画通りに研究を実施できた。

健康危険情報

該当なし

知的所有権の出願・取得状況

該当なし

研究発表

白坂琢磨

Shimamoto Y, Fukuda T, Tominari S, Fukumoto K,

Ueno K, Dong M, Tanaka K, Shirasaka T, Komori K. : Decreased vancomycin clearance in patients with congestive heart failure. *Eur J Clin Pharmacol*. 2012.

Fujisaki S, Yokomaku Y, Shiino T, Koibuchi T, Hattori J, Ibe S, Iwatani Y, Iwamoto A, Shirasaka T, Hamaguchi M, Sugiura W. : Outbreak of infections by hepatitis B virus genotype A and transmission of genetic drug resistance in patients coinfecting with HIV-1 in Japan. *J Clin Microbiol*, 49(3): 1017-24. 2011

渡邊大

Watanabe D, Yoshino M, Yagura H, Hirota K, Yonemoto H, Bando H, Yajima K, Koizumi Y, Otera H, Tominari S, Nishida Y, Kuwahara T, Uehira T, and Shirasaka T. Increase in Serum Mitochondrial Creatine Kinase Levels Induced by Tenofovir Administration. *J Infect Chemother*, 18(2): 675-82, 2012

Yoshino M, Yagura H, Kushida H, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Yajima K, Kasai D, Taniguchi T, Watanabe D, Nishida Y, Kuwahara T, Uehira T, Shirasaka T. Assessing recovery of renal function after tenofovir disoproxil fumarate discontinuation. *J Infect Chemother*, 18(2): 169-74, 2012.

Watanabe D, Koizumi Y, Yajima K, Uehira T, Shirasaka T. Diagnosis and Treatment of AIDS-Related Primary Central Nervous Lymphoma. *J Blood Disord Transfus*. S1-001. doi: 10.4172/2155-9864, 2012

Watanabe D, Ibe S, Uehira T, Minami R, Sasakawa A, Yajima K, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Taniguchi T, Kasai D, Nishida Y, Yamamoto M, Kaneda T, Shirasaka T. Cellular HIV-1 DNA levels in patients receiving antiretroviral therapy strongly correlate with therapy initiation

timing but not with therapy duration. *BMC Infect Dis*, 11:146, 2011

竹谷英之

Ebihara Y, Takedani H, Ishige I, Nagamura-Inoue T, Wakitani S, Tojo A, et al. Feasibility of autologous bone marrow mesenchymal stem cells cultured with autologous serum for treatment of haemophilic arthropathy. *Haemophilia* 19:e87-89, 2013

Shimada K, Takedani H, Inoue K, Yamasaki K. Arthroscopic synovectomy of the elbow covered with rFVIIa in a haemophilia B juvenile with inhibitor. *Haemophilia*, 18: e414-6, 2012

久慈直昭

和田みどり、田部陽子、三井田孝、久慈直昭：傾斜回転装置を利用した連続密度勾配法による効率的精子回収。 *Journal of Clinical Embryologist* (1349-0834) 13巻 Page33-34、2011年

鯉淵智彦

Kikuchi T, Iwatsuki-Horimoto K, Adachi E, Koga M, Nakamura H, Hosoya N, Kawana-Tachikawa A, Koibuchi T, Miura T, Fujii T, Kawaoka Y, Iwamoto A. Improved neutralizing antibody response in the second season after a single dose of pandemic (H1N1) 2009 influenza vaccine in HIV-1-positive adults. *Vaccine*, 6;30(26): 3819-23. 2012.

Nakayama K, Nakamura H, Koga M, Koibuchi T, Fujii T, Miura T, Iwamoto A, Kawana-Tachikawa A. Imbalanced Production of Cytokines by T Cells Associates with the Activation/Exhaustion Status of Memory T Cells in Chronic HIV Type 1 Infection. *AIDS Res Hum Retroviruses*, 28(7): 702-14. 2012.

大北全俊

大北全俊：HIV 感染症対策が内包する枠組みに関する政治哲学的分析の試み。 *メタフュシカ* 41、1-12、2010年

吉村和久

Harada S, Yoshimura K, Yamaguchi A, Boonchawalit S, Yusa K, Matsushita S. Impact of antiretroviral pressure on selection of primary HIV-1 envelope sequences in vitro. *J Gen Virol*, 94:933-43, 2013.

Yokoyama M, Naganawa S, Yoshimura K, Matsushita S, Sato H. Structural Dynamics of HIV-1 Envelope Gp120 Outer Domain with V3 Loop. *PLoS ONE*, 7: e37530. 2012

仲倉高広

Nakakura T: The Psychotherapy with HIV-infected Male through Landscape Montage Technique. Fourth International Academic Conference of Analytical Psychology & Jungian Studies、ポルトガル、2012年

秋葉隆

Canaud B. Tong L. Tentori F. Akiba T. Karaboyas A. Gillespie B. Akizawa T. Pisoni RL. Bommer J. Port FK. Clinical practices and outcomes in elderly hemodialysis patients: results from the Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study (DOPPS). *Clinical Journal of The American Society of Nephrology: CJASN*. 6(7):1651-62, 2011

Iwasa Y. Otsubo S. Yajima A. Kimata N. Akiba T. Nitta K. Intracranial artery calcification in hemodialysis patients. *International Urology & Nephrology*. 43(2):585-8, 2011

Taniguchi M. Tanaka M. Hamano T. Nakanishi S. Fujii H. Kato H. Koiwa F. Ando R. Kimata N. Akiba T. Kono T. Yokoyama K. Shigematsu T. Kakuta T. Kazama JJ. Tominaga Y. Fukagawa M. Comparison between whole and intact parathyroid hormone assays. *Therapeutic Apheresis & Dialysis: Official Peer-Reviewed Journal of the International Society for Apheresis, the*

Japanese Society for Apheresis, the Japanese Society for Dialysis Therapy. 15 Suppl 1:42-9, 2011

横幕能行

Miyamoto T, Nakayama EE, Yokoyama M, Ibe S, Takehara S, Kono K, Yokomaku Y, Pizzato M, Luban J, Sugiura W, Sato H, Shioda T. The Carboxyl-Terminus of Human Immunodeficiency Virus Type 2 Circulating Recombinant form 01_AB Capsid Protein Affects Sensitivity to Human TRIM5 α . *PLoS one*. 7(10):e47757. 2012

Kitamura S, Ode H, Nakashima M, Imahashi M, Naganawa Y, Kurosawa T, Yokomaku Y, Yamane T, Watanabe N, Suzuki A, Sugiura W, Iwatani Y. The APOBEC3C crystal structure and the interface for HIV-1 Vif binding. *Nature structural & molecular biology*. 19(10):1005-1010. 2012

Hirano A, Ikemura K, Takahashi M, Shibata M, Amioka K, Nomura T, Yokomaku Y, Sugiura W. Short communication: lack of correlation between UGT1A1*6, *28 genotypes, and plasma raltegravir concentrations in Japanese HIV type 1-infected patients. *AIDS research and human retroviruses*. 28(8):776-779. 2012

高田清式

Honda M, Ishisaka M, Ishizuka N, Kimura S, Oka S, Takada K (behalf of Japanese Anti-HIV-1 QD Therapy Study Group) : Open-Label Randomized Multicenter Selection Study of Once Daily Antiretroviral Treatment Regimen Comparing Ritonavir-Boosted Atazanavir to Efavirenz with Fixed-Dose Abacavir and Lamivudine. *Intern Med* 50, 699-705, 2011

佐保美奈子

古山美穂、佐保美奈子、豊田百合子、畑井由美子、泉柚岐、飯沼恵子、澤口智登里、熊谷祐子、下司有加 : エイズ看護及び教育に対する看護管理者のニー

ズ。日本看護学会論文集、268-271、2012 年

井上洋士

Omura K, Eguchi E, Imahuku K, Kutsumi M, Ito M, Inoue Y, Yamazaki Y. The effect of peer support groups on self-care for hemophilic patients with HIV in Japan. *Haemophilia*19(6):876-81, 2013

大村佳代子、伊藤美樹子、今福溪子、江口依里、九津見雅美、井上洋士、山崎喜比古：HIV 感染を知らされた状況別にみた薬害 HIV 患者の疾患管理行動。日本エイズ学会誌 14(3)：153-158, 2012 年

藤原良次

藤原良次、早坂典生、橋本謙、山縣真矢、間島孝子、太田裕治、羽鳥潤、坂本裕敬、白阪琢磨：ケースマネジメントスキルを使った行動変容支援サービスに関する研究。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年

中田たか志

中田たか志：東京 HIV デンタルネットワークに参加する歯科医師およびスタッフを対象にした、HIV 陽性者歯科診療に関するアンケート調査によるスタッフの意識と風評被害の実態。第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年

井戸田一朗

井戸田一朗：HIV 診療におけるアディクション、シンポジウム「セクシュアルヘルスとアディクション」。第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、横浜、2012 年

小西加保留

小西加保留：アドボカシー概念の再考—HIV/AIDS ソーシャルワークを通して—『社会福祉学への展望』芝野松次郎。小西加保留編著、相川書房 75-92、2012 年

山内哲也

山内哲也：「社会福祉施設における HIV 陽性者の受け入れに関する福祉施設長の意識と行動プロセス」。医

療社会福祉研究第 21 巻、2013 年

下司有加

下司有加：訪問看護ステーションにおける HIV 陽性者の受け入れに関する研究。第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、横浜、2012 年

平成 25 年度

研究目的

HIV 感染症は HAART によって医学的管理ができる慢性疾患となったが、HIV 感染症の治療の分野で克服すべき課題が山積している。本研究では平成 23 年度に改定されたエイズ予防指針の見直し作業班の報告に基づき、A. 治療・合併症、B. 地域の医療の質の向上、C. 陽性者支援のための地域連携、D. 長期療養支援に大別し、課題の抽出と解決方法の提示を目的とし、最終年度に対策と提言を目指す。

研究方法

目的達成のため今年度を実施した主な研究方法を次に示す。A-1. 急性感染期の診断・治療での課題に関する研究(渡邊)：急性期治療例における残存プロウイルス量の長期観察および早期免疫低下関連因子の解析。A-2. HIV 陽性者の生殖医療に関する研究(久慈)：精液中抗 HIV 剤等の測定および洗浄精液を用いた不妊治療の事業化の検討。A-3. HIV 感染者の口腔内免疫に関する研究(吉村)：唾液のサイトカインや口腔病原微生物量の測定と口腔症状の関連性の解明。A-4. MRI 画像による神経認知障害の神経基盤の解明*(村井)：神経心理検査陽性者の MRI 画像の検討。A-5. HIV 医療の倫理的課題に関する研究(大北)：課題把握のため海外ジャーナル等の文献調査の実施。A-6. 抗 HIV 療法のガイドラインに関する研究(鯉淵)：国内外の知見を基にガイドラインを改訂。B-1. HIV 陽性者の心理学的問題と対応に関する研究(仲倉)：HIV 陽性者の神経心理学的障害出現頻度の調査継続と日常診療で実施できる簡便なスクリーニング検査の開発。B-2. HIV 陽性者の心理的負担、および精神医学的介入の必要性和ネットワーク形成に関する研究(廣常)：初診 1 年後のメンタルヘルス調査の継続と課題の抽出、研修会参加者を対象としたネットワーク構築、AIDS 精神疾患ハンドブックの

和訳。B-3. HIV 感染患者における透析医療の推進に関する研究 (秋葉) : 透析医療における標準的な透析操作と院内感染予防に関するマニュアル (三訂版) の改訂作業の推進。B-4. 病病・病診連携の地域モデルの構築 (横幕) : 愛知県での ICT (Information communication technology) による HIV 病・病診連携システムの構築と評価。B-5. 地域 HIV 看護の質の向上に関する研究 (佐保) : 看護研修会の実施と養護教諭向け教材の開発。B-6. HIV 陽性者のセクシュアルヘルス実態把握と支援方略検討 (井上) : HIV 陽性者のセクシャルヘルスのウェブ調査とスキルアップコースの開発。C-1. 心理専門カウンセラーおよびピアカウンセラーの介入に関する研究 (藤原) : 薬害 HIV 感染被害者の心理的現状把握のためのインタビュー調査。C-2. 当事者支援に関する研究 (桜井) : 保健所等で発見された陽性者の受診行動の阻害因子と促進因子の解明およびマニュアル『HIV 検査相談要確認・陽性告知のポイント』の改訂。C-3. HIV 陽性者ケア等に関する NPO/NGO の連携に関する研究 (山崎) : NGO へのアンケート調査・ヒアリング、NGO 指導者研修の評価。D-1. 長期療養患者のソーシャルワークに関する研究 (小西) : 精神疾患等の障碍陽性者の生活課題をフォーカスグループインタビューなどによる解明、市民主体の地域啓発活動の推進と評価。D-2. 長期療養者の受け入れにおける福祉施設の課題と対策 (山内) : 福祉施設の受け入れマニュアルを用いた研修会の実施および効果的研修プログラムの検討等。D-3. 長期療養看護の現状と課題に関する研究 (下司) : 訪問看護ステーション連絡協議会での訪問看護研修会の実施と都市部での介護・福祉職を対象とした研修会の実施。D-4. 地域における HIV 診療および福祉連携のあり方に関する研究 (高田) : 地方の診療モデルとして HIV 診療の充実および福祉連携に関し愛媛県および四国の HIV 診療の実態調査と具体的な問題点・改善策の検討。その他、携帯を用いた服薬支援ツールの改良および検査予約システム開発、HIV 治療の薬剤情報提供ホームページの開発。なお、研究分担 A-4* は今年度が初年度である。

(倫理面への配慮)

疫学研究に関する倫理指針を遵守した。個人情報扱う研究では施設の倫理委員会の承認後に実施し

た。

研究結果

今年度の主な結果を以下に示す。A-1. 今年度、横断的調査 68 例、縦断的調査 30 例について測定を終了した。横断的調査では急性感染期治療例は残存プロウイルス量が低値を示した。早期免疫低下関連因子は解析中。A-2. 密度勾配溶液についてはパーコールが市販密度勾配溶液にその洗浄効率において明らかに優る結果であった。ウイルス陰性を確認する PCR 検査を利用出来る体制を構築した。A-3. HIV 陽性者の菌定量では唾液中 *Candida spp.* が 207.1 ± 424.4 、対照者が 2.3 ± 3.3 と約 100 倍多かった。*S. mutans* の菌数は対照者の約 10 倍多かった。免疫指標定量では HIV 陽性者の IL-8 濃度が対照者よりも高い傾向にあり、TNF α は HIV 陽性者 1 名で測定できた。A-4. 国内外文献調査を行い、研究実施施設の倫理委員会で承認を得た。A-5. 昨年度抽出した主要トピックそれぞれの議論、特に検査、研究、妊娠/出産を重点的にを精査し、議論の枠組みの検討を行った。A-6. 国内外の知見と海外のガイドラインを参考に年度内に改訂。B-1. 206 名に神経心理学的検査を実施し解析中。有症状 HIV 陽性者は HAND (疑) のみならず、アルツハイマーなど皮質性神経心理学的障害など多岐に亘っていた。B-2. Handbook of AIDS Psychiatry (Oxford University Press, 2010, New York) の一部を粗訳。298 例の分析結果では 1 年後のメンタルヘルスは改善していたが、約半数に問題があり不安はむしろ悪化していた。精神科協力診療リストを更新した。B-3. 日本透析医学会、透析医会、透析看護学会、臨床工学技士会の各理事会に諮り改訂参加の承認を得、作成メンバーの推薦、方針決定、担当部分の決定を経て草稿作成に入った。B-4. 基幹ネットワーク 4 カ所目の名古屋大学医学部附属病院で利用契約を審査中。主に看護師、薬剤師によるクリニックでの HIV 感染者診療支援をネットワークを用いて開始。B-5. HIV サポートリーダー養成研修 (3 日間) に累計 115 名が修了。大阪府内高等学校 11 校に出前講義し研究班作成 DVD 教材を使用、さらに養護教諭向け DVD 教材を企画・製作。B-6. ウェブ調査参加者 926 人の中間集計で「性生活の相談ができない」4 割、「HIV の話を誰ともできない」2 割であった。C-1.

調査した 10 名全員に何らかの心理的課題が見られたがカウンセリング経験有りは 3 名であった。C-2. 検査時の要確認及び陽性告知後カウンセリングにおける受検者 30 名の精神心理状況と聞き取り結果につき分析した。『HIV 検査相談要確認・陽性告知のポイント』マニュアル改訂作業中。C-3. アンケート調査では中核拠点病院 52、自治体および保健所 270 から回答を得た。エイズ予防財団実施の NGO 指導者研修会の企画・運営につき参加 NGO らの意見も含め検討を行った。D-1. ソーシャルワーカーによる経験報告は多くないが、チーム体制が成熟した環境では有効に機能する可能性が高かった。イベントでの高校生の主体的関与が年々高まり市民活動としての意識も向上したが課題があった。D-2. 福祉関係者向けエイズ啓発研修を東京など 5 県域単位の研修を含め総数 20 回の研修を開催。累積的事例研究として HIV 陽性者受入れ実績のある高齢者施設の施設長にインタビュー調査を実施し、日本社会福祉学会で報告。D-3. 研究参加者は合計 176 名。参加動機は自己研鑽 (75%)、76%の参加者が HIV 感染症研修会の参加経験がなかった。研修参加で HIV 陽性者支援の意識変化「あり」が 78%で、受け入れ可能 40%、要準備 53%であった。今後も研修会参加希望は 98%であった。介護の研修も同様の傾向であった。HIV 陽性者介護上の不安は 53%であり、「知識では理解できても気持ちの上で不安」、「スタッフ全員が理解できていない」などの意見があった。i-net 参加施設は 63 に増加。D-4. 調査研究にて HIV 診療および福祉連携の実態および問題点の把握、各病院や福祉施設間の連携、今後の HIV 患者の受け入れについて検討を行った。その他、携帯を用いた服薬支援ツールの改良および検査予約システム開発、HIV 治療の薬剤情報提供ホームページの開発を行った。

考察

指定研究の 2 年目であり調査結果の解析や追加調査、課題の抽出等に取り組んだ。ガイドライン、マニュアル、ハンドブック等や支援の各種ツールは実施での評価と改訂を一部行った。その他、多くの研究から重要な結果を得た。

自己評価

1) 達成度について

当初計画を概ね実施でき目的を達成できた。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

本研究は HIV 感染症の治療等で課題を明らかにし、その対策につき検討を行うものであり、必要性は高い。いずれも学術的意義も高く、国際的にも新規性が高い。治療のガイドライン改訂など、社会的意義も大きいと考える。

3) 今後の展望について

これまでの研究結果を踏まえさらに研究を深める。

結論

HIV 感染症の治療と関連分野（治療・合併症、地域医療の質の向上、陽性者支援のための地域連携、長期療養支援）で課題を抽出し、ほぼ計画通りに研究を実施できた。

健康危険情報

該当なし

知的所有権の出願・取得状況

該当なし

研究発表

白阪琢磨

Ota Y, Hishima T, Mochizuki M, Kodama Y, Moritani S, Oyaizu N, Mine S, Ajisawa A, Tanuma J, Uehira T, Hagiwara S, Yajima K, Koizumi Y, Shirasaka T, Kojima Y, Nagai H, Yokomaku Y, Shiozawa Y, Koibuchi T, Iwamoto A, Oka S, Hasegawa H, Okada S, Katano H : Classification of AIDS-related lymphoma cases between 1987 and 2012 in Japan based on the WHO classification of lymphomas, fourth edition. Cancer Med. 2014

Tominari S, Nakakura T, Yasuo T, Yamanaka K, Takahashi Y, Shirasaka T, Nakayama T : Implementation of mental health service has an impact on retention in HIV care: a nested

case-control study in a Japanese HIV care facility. *PLOS ONE* 8(7):1-6, 2013

Yoshino M, Yagura H, Kushida H, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Yajima K, Kasai D, Taniguchi T, Watanabe D, Nishida Y, Kuwahara T, Uehira T, Shirasaka T: Assessing recovery of renal function after tenofovir disoproxil fumarate discontinuation. *J Infect Hemother*, 18(2):169-74. 2012

白阪琢磨: 抗 HIV 治療、最新の治療戦略について。第 87 回日本感染症学会学術集会・第 61 回日本化学療法学会総会合同学会、横浜、2013 年 6 月

渡邊 大

Watanabe D, Otani N, Suzuki S, Dohi H, Hirota K, Yonemoto H, Koizumi Y, Otera H, Yajima K, Nishida Y, Uehira T, Shima M, Shirasaka T, Okuno T: Evaluation of VZV-specific cell-mediated immunity in adults infected with HIV-1 by using a simple IFN- γ release assay. *J Med Virol*. 85(8):1313-20, 2013

Watanabe D, Yoshino M, Yagura H, Hirota K, Yonemoto H, Bando H, Yajima K, Koizumi Y, Otera H, Tominari S, Nishida Y, Kuwahara T, Uehira T, Shirasaka T. Increase in Serum Mitochondrial Creatine Kinase Levels Induced by Tenofovir Administration. *J Infect Chemother*. 18:675-82, 2012

Watanabe D, Ibe S, Uehira T, Minami R, Sasakawa A, Yajima K, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Taniguchi T, Kasai D, Nishida Y, Yamamoto M, Kaneda T, Shirasaka T. Cellular HIV-1 DNA levels in patients receiving antiretroviral therapy strongly correlate with therapy initiation timing but not with therapy duration. *BMC Infect Dis*. 11:146, 2011

吉村和久

Harada S, Yoshimura K, Yamaguchi A,

Boonchawalit S, Yusa K, Matsushita S. Impact of antiretroviral pressure on selection of primary human immunodeficiency virus type 1 envelope sequences in vitro. *J Gen Virol*. 94(5):933-43. 2013

久慈直昭

久慈 直昭、上條 慎太郎、井上 治、福永 朝子、小川 誠司、菅原 かな、奥村 典子、山田 満稔、浜谷 敏生、吉村 泰典: HIV 患者男性に対する生殖医療、産婦人科の実際 62 (4)、499-506、2013

大北全俊

横田恵子・大北全俊: ソーシャルワーク専門職定義の変遷と現状—社会倫理学・政治思想的含意に関わる一考察—、神戸女学院大学論集(60-1):207-214、2013 年

大北全俊、遠矢和希、加藤穰、Franziska Kasch、花井十伍、横田恵子、白阪琢磨: HIV 感染症に関する倫理的な議論の枠組みについて—海外文献の調査に基づく研究—。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

鯉渕智彦

Adachi E, Koibuchi T, Imai K, Kikuchi T, Shimizu S, Koga M, Nakamura H, Iwamoto A, Fujii T. Hemophagocytic syndrome in an acute human immunodeficiency virus infection. *Intern Med*; 52:629-32. 2013.

Shimizu A, Kawana-Tachikawa A, Yamagata A, Han C, Zhu D, Sato Y, Nakamura H, Koibuchi T, Carlson J, Martin E, Brumme CJ, Shi Y, Gao GF, Brumme ZL, Fukai S, Iwamoto A. Structure of TCR and antigen complexes at an immunodominant CTL epitope in HIV-1 infection. *Sci Rep*; 3:3097. 2013.

Nomura S, Hosoya N, Brumme ZL, Brockman MA, Kikuchi T, Koga M, Nakamura H, Koibuchi T, Fujii T, Carlson JM, Heckerman D, Kawana-Tachikawa A, Iwamoto A, Miura T. Significant reductions in

Gag-protease-mediated HIV-1 replication capacity during the course of the epidemic in Japan. *J Virol.*;87(3):1465-76. 2013

仲倉高広

仲倉高広、下司有加、渡邊大、白阪琢磨：箱庭療法が奏功した HIV 陽性者の心理療法～広汎性発達障害のある HIV 陽性者の事例～。第 27 回日本エイズ学会・学術集会・総会。熊本、2013 年 11 月

仲倉高広：「精神的支援」ということばをめぐって臨床心理士が考えること。シンポジウム 8 (看護) HIV 陽性者にとって医療者による精神的支援とは？。第 27 回日本エイズ学会・学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

廣常秀人

安尾利彦、治川知子、富成伸次郎、廣常秀人、白阪琢磨：意欲低下、自殺念慮、対人恐怖を主訴とした、ある HIV 陽性者との心理療法過程。第 26 回日本エイズ学術集会・総会、横浜、2012 年 11 月

秋葉 隆

Moroi M MD, Nagara T MD, Nishimura M MD, Haze K MD, Nishimura T MD, Kusano E MD, Akiba T MD, Sugimoto T MD, Hase H MD, Hara K MD, Nakata T MD, Kumita S MD, Nagai Y MD, Hashimoto A MD, Momose M MD, Miyakoda K MPH, Hasebe N MD, Kikuchi K MD Association Between Abnormal Myocardial Fatty Acid Metabolism and Cardiac-derived Death Among Patients Undergoing Hemodialysis: Results From a Cohort Study in Japan. *Am J Kidney Dis* 61 (3) 466-475, 2013

Yamashita T, Okano K, Tsuruta Y, Akiba T, Nitta K Serum osteocalcin levels are useful as a predictor of cardiovascular events in maintenance hemodialysis patients. *Int Urol Nephrol* 45: 207-214, 2013

秋葉隆：透析療法の現状。第 110 回日本内科学会講演会 教育講演、東京、日本内科学会雑誌 102

(9) :2013.

横幕能行

Shibata M, Takahashi M, Yoshino M, Kuwahara T, Nomura T, Yokomaku Y, Sugiura W. Development and application of a simple LC-MS method for the determination of plasma rilpivirine (TMC-278) concentrations. *The journal of medical investigation* . 60(1-2):35-40. 2013.

Katano H, Yokomaku Y, Fukumoto H, Kanno T, Nakayama T, Shingae A, Sugiura W, Ichikawa S, Yasuoka A. Seroprevalence of Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus among men who have sex with men in Japan. *Journal of medical virology*. 85(6):1046-1052. 2013.

Kitamura S, Ode H, Nakashima M, Imahashi M, Naganawa Y, Kurosawa T, Yokomaku Y, Yamane T, Watanabe N, Suzuki A, Sugiura W, Iwatani Y. The APOBEC3C crystal structure and the interface for HIV-1 Vif binding. *Nature structural & molecular biology*. 19(10):1005-1010. 2012.

佐保美奈子

佐保美奈子：病院での人権研修において HIV/AIDS を取り上げる意義、人権教育研究(14) :119-124、2014 年

椿知恵、山田加奈子、古山美穂、佐保美奈子：勤務看護職の高校生への出張による性教育活動－「体験」から考える、活動継続への支援－、第 44 回日本看護学会論文集 看護管理 , 2014 年

井上洋士

Omura K, Eguchi E, Imahuku K, Kutsumi M, Ito M, Inoue Y, Yamazaki Y : The effect of peer support groups on self-care for hemophilic patients with HIV in Japan. *Haemophilia* 19(6) : 876-881, 2013.

井上洋士、戸ヶ里泰典、細川陸也、阿部桜子、吉澤繁行、若林チヒロ、大木幸子、板垣貴志、高久陽

介、矢島嵩：HIV 陽性者をめぐる今日的課題 HIV Futures Japan プロジェクトでの検討プロセスを踏まえて。日本エイズ学会誌 15(2)：85-90，2013。

藤原良治

橋本謙、藤原良次、早坂典生、山田富秋、種田博之、白阪琢磨：「血友病 HIV 感染患者に対するインタビュー調査からの現状把握とカウンセリングに関する研究」第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本 2013 年 11 月

桜井健司

桜井健司：HIV 感染者と AIDS 患者の相談と在宅支援について—HIV と共に生きる社会を目指して。尼崎市保健所研修会、兵庫、2013 年 8 月

小西加保留

小西加保留、脊戸京子、高田雅章、梶原秀晃、大野まどか、戸田伸夫、白阪琢磨：市民主体の HIV 啓発活動の検証。第 27 回日本エイズ学会共催シンポジウム、熊本、2013 年 11 月

山内哲也

山内哲也 社会福祉施設における HIV 陽性者の受入れに関する福祉施設長の意識と行動プロセス。医療社会福祉研究」第 21 巻 2013 年

山内哲也：表題：社会福祉施設長の HIV 陽性者の受入れ戦略—福祉施設長のインタビューを通して—。日本社会福祉学会 秋季大会、札幌、2013 年 11 月

下司有加

下司有加、関矢早苗、岡本学、富成伸次郎、今村顕史、白阪琢磨：訪問看護ステーションにおける HIV 陽性者の受け入れに関する研究、第 26 回日本エイズ学術集会・総会、横浜、2012 年 11 月

高田清式

Nishijima T, Gatanaga H, Shimbo T, Endo T, Horiba M, Koga M, Naito T, Itoda I, Tei M, Fujii T, Takada K, Yamamoto M, Miyakawa T, Tanabe Y, Mitsuya H, Oka S：Switchig Tenofovir/Emtricitabine

plus Lopinavir/r to Raltegravir plus Darunavir/r in patients with suppressed viral load did not result in improvement of renal function but could sustain viral suppression: A Randomized Multicenter Trial. PLOS ONE 8: e73639. doi:10.1371. 2013

高田清式、村上雄一、末盛浩一郎、安川正貴、辻井智明、西川典子、木村博史、井門敬子、中村真理子、藤原光子、中尾 綾、小野恵子：HIV 関連神経認知障害 (HAND) における髄液中の HIV-RNA 量、ネオプテリン量の測定。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

平成 26 年度

研究目的

HIV 感染症は HAART によって医学的管理ができる慢性疾患となったが、HIV 感染症の治療の分野で克服すべき課題が山積している。本研究では平成 23 年度に改定されたエイズ予防指針の見直し作業班の報告に基づき、A. 治療・合併症、B. 地域の医療の質の向上、C. 陽性者支援のための地域連携、D. 長期療養支援に大別し、課題の抽出と解決方法の提示を目的とし、最終年度に対策と提言を目指す。

研究方法

目的達成のため今年度を実施した主な研究方法を次に示す。A-1. 急性感染期の診断・治療での課題に関する研究 (渡邊)：急性期治療例における残存プロウイルス量の長期観察および早期免疫低下関連因子の解析。A-2. HIV 陽性者の生殖医療に関する研究 (久慈)：精液中抗 HIV 剤等の測定および洗浄精液を用いた不妊治療の事業化の検討。A-3. HIV 感染者の口腔内免疫に関する研究 (吉村)：唾液のサイトカインや口腔病原微生物量の測定と口腔症状の関連性の解明。A-4. MRI 画像による神経認知障害の神経基盤の解明 (村井)：神経心理検査陽性者の MRI 画像の検討。A-5. HIV 医療の倫理的課題に関する研究 (大北)：課題把握のため海外ジャーナル等の文献調査の実施。A-6. 抗 HIV 療法のガイドラインに関する研究 (鯉淵)：国内外の知見を基にガイドラインを改訂。B-1. HIV 陽性者の心理学的問題と対応に関する研究

(仲倉) : HIV 陽性者の神経心理学的障害出現頻度の調査継続と日常診療で実施できる簡便なスクリーニング検査の開発。B-2. HIV 陽性者の心理的負担、および精神医学的介入の必要性和ネットワーク形成に関する研究(廣常) : 初診1年後のメンタルヘルス調査の継続と課題の抽出、研修会参加者を対象としたネットワーク構築、AIDS 精神疾患ハンドブックの和訳。B-3. HIV 感染患者における透析医療の推進に関する研究(秋葉) : 透析医療における標準的な透析操作と院内感染予防に関するマニュアル(三訂版)の改訂作業の推進。B-4. 病病・病診連携の地域モデルの構築(横幕) : 愛知県での ICT(Information communication technology)による HIV 病・病診連携システムの構築と評価。B-5. 地域 HIV 看護の質の向上に関する研究(佐保) : 看護研修会の実施と養護教諭向け教材の開発。B-6. HIV 陽性者のセクシュアルヘルス実態把握と支援方略検討(井上) : HIV 陽性者のセクシャルヘルスのウェブ調査とスキルアップコースの開発。C-1. 心理専門カウンセラーおよびピアカウンセラーの介入に関する研究(藤原) : 薬害 HIV 感染被害者の心理的現状把握のためのインタビュー調査。C-2. 当事者支援に関する研究(桜井) : 保健所等で発見された陽性者の受診行動の阻害因子と促進因子の解明およびマニュアル『HIV 検査相談要確認・陽性告知のポイント』の改訂。C-3. HIV 陽性者ケア等に関する NPO/NGO の連携に関する研究(山崎) : NGO へのアンケート調査・ヒアリング、NGO 指導者研修の評価。D-1. 長期療養患者のソーシャルワークに関する研究(小西) : 精神疾患等の障碍陽性者の生活課題をフォーカスグループインタビューなどによる解明、市民主体の地域啓発活動の推進と評価。D-2. 長期療養者の受け入れにおける福祉施設の課題と対策(山内) : 福祉施設の受け入れマニュアルを用いた研修会の実施および効果的研修プログラムの検討等。D-3. 長期療養看護の現状と課題に関する研究(下司) : 訪問看護ステーション連絡協議会での訪問看護研修会の実施と都市部での介護・福祉職を対象とした研修会の実施。D-4. 地域における HIV 診療および福祉連携のあり方に関する研究(高田) : 地方の診療モデルとして HIV 診療の充実および福祉連携に関し愛媛県および四国の HIV 診療の実態調査と具体的な問題点・改善策の検討。その他、携帯を用い

た服薬支援ツールの改良および検査予約システム開発、HIV 治療の薬剤情報提供ホームページの開発。

(倫理面への配慮)

疫学研究に関する倫理指針を遵守した。

研究結果

今年度の主な結果を次に示す。A-1. 横断的観察 76 例、縦断的観察 39 例について測定を終了。横断的観察については急性感染期治療例で残存プロウイルス量が低値を示し、縦断的観察においても同様な結果が得られた。A-2. 新医療機関で倫理審査の承認を得た。ウイルス検定は従来通りとして、事業化したシステム構築を行った。各種密度勾配溶剤の洗浄後の回収率はほぼ同等であった。濃厚ウイルス液の洗浄効率、および連続密度勾配液の簡易作成法について検討中。A-3. 総菌数、総嫌気性菌数、M-CSF は、HIV 陽性群において、対照群に比べ有意に多かった。う蝕や歯周病を有する HIV 陽性群では M-CSF と CA125/MUC16 が対照群よりも高かった。A-4. 患者群 7 名を検査。7 名中 4 名が HAND と診断。3 名が軽度、1 名が無症候性の神経認知障害。MRI の肉眼的脳萎縮と認知機能障害の間に正の相関がみられた。A-5. 海外文献調査では、検索キーワードの変更により文献数は 1,984 件と大幅に増加。日本については、主にカウンセリングに関する文献から、守秘義務等の議論を析出。A-6. 治療ガイドラインは HIV 診療に携わる医療従事者に広く利用され、国内の HIV/AIDS 診療レベルの向上に大きく寄与した。B-1. ①神経心理学的問題 HAND や種々の障害の複合的な存在が分かった。②HIV 陽性者の約 70%がラッシュを、15%が覚せい剤の使用経験があった。また、覚せい剤の使用経験者は、自傷傾向や自殺への思いなどが多かった。心理的に苦悩している HIV 陽性で同性愛、またアディクションを併せ持つ男性に対し研修会を 5 回、物質乱用のある HIV 陽性者を対象に集団討議を 16 回実施した。B-2. Handbook of AIDS Psychiatry (Cohen, MA et al. 2010) の翻訳を行った。診療協力施設リストを更新した。2 回開催した研修会の参加者の 90%以上が研修を臨床に役立つと評価した。ハンドブックを配布した。B-3. 日本透析医学会、透析医会、臨床工芸技士会、透析看護学会に委員派遣を要請し、22 名

の委員会を組織した。7回の会議で改訂案を作成し、参加学会 Web でパブリックコメントを募集し、最終案を作成した。各理事会での承認後、ガイドラインの出版、会員への配布、Web 掲載を行う。B-4. 県内 HIV 診療拠点との定例カンファレンスによる診療情報の共有を行った。曝露時対応体制構築により遠隔地での透析患者受入および新規拠点病院指定した。ケア会議参加による地域在宅療養サービスチームの支援を行った。B-5. 9 回の HIV サポートリーダー養成研修で、合計 153 名の修了生を輩出し、修了生が養成研修や高校生への講義を担当した。B-6. 全国から 913 人の有効回答を得た。セックス頻度は「まったくしていない」が最多 20.8%であり、性に関する相談上の困難は、LGBT 関連スティグマとともに HIV 関連スティグマが大きいほど有意に大きかった。C-1. 6 月から 12 月にかけて 7 名、3 年間で 17 名を調査した。心理 Co を受けたのは 3 名であり、他は心理 Co を受けていなかった。心理的支援は家族や周囲、ピアグループに求めている。C-2. 検査で陽性となった 90 名について分析と検討を実施した。C-3. 中核拠点病院 52 件、自治体・保健所 270 件のアンケート結果の分析を行った。NGO 指導者研修会のアンケート結果を分析、研修参加前・参加後で比較し、効果評価を行った。NGO と行政・研究者との連携促進につながる研修プログラムを模索した。D-1. ソーシャルワーカーの資質向上と周囲の環境の協力によって効果的なパフォーマンスが可能となる事が明らかとなった。イベント開催により高校生の意識や主体性が高まり、一方で有限会社による居場所作りの立ち上げに繋がった。『HIV/AIDS ソーシャルワークの展望(仮)』を中央法規出版より刊行予定。D-2. 研究班主催の福祉関係者向けエイズ啓発研修を 8 地域単位で開催した。福祉施設向けマニュアル「HIV/AIDS の正しい知識」の改訂作業を行った。福祉施設看護師 6 名のフォーカスインタビューから HIV 陽性者の受入れ課題を抽出した。HIV 陽性者の受入れに向けた協議会を発足。D-3. 訪問看護師研修会は 3 地域、i-net 登録事業所では 11 事業所、介護福祉研修会は 3 地域で研修会を実施し、いずれも良い評価を得た。全国の訪問看護ステーションの HIV 陽性者受け入れ調査では、92%が受け入れ経験がなく、今後の受け入れは、可能 15%、準備が必要 63%、不可能 21%であった。研

修会への参加意識は高く、64%が希望していた。D-4. HIV 診療および福祉連携の実態および問題点が把握でき、かつ各病院や福祉施設間の連携が図られ、今後の介護・療養が必要な HIV 患者の受け入れについても前向きな傾向が得られた。その他、携帯を用いた服薬支援ツールの改良および検査予約システム開発など、いくつかの研究で提言を行った。

考察

指定研究の 3 年目であり調査結果の解析や追加調査、課題の抽出等に取り組んだ。ガイドライン、マニュアル、ハンドブック等や支援の各種ツールは実施での評価と改訂を一部行った。その他、多くの研究から重要な結果を得た。

自己評価

1) 達成度について

当初計画を概ね実施でき目的を達成できた。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

本研究は HIV 感染症の治療等で課題を明らかにし、その対策につき検討を行うものであり、必要性は高い。いずれも学術的意義も高く、国際的にも新規性が高い。治療のガイドライン改訂など、社会的意義も大きいと考える。

3) 今後の展望について

これまでの研究結果を踏まえさらに研究を深める。

結論

HIV 感染症の治療と関連分野（治療・合併症、地域医療の質の向上、陽性者支援のための地域連携、長期療養支援）で課題を抽出し、ほぼ計画通りに研究を実施できた。

健康危険情報

該当なし

知的所有権の出願・取得状況

該当なし

研究発表

白阪琢磨

Katano H, Hishima T, Mochizuki M, Kodama Y, Oyaizu N, Ota Y, Mine S, Igari T, Ajisawa A, Teruya K, Tanuma J, Kikuchi Y, Uehira T, Shirasaka T, Koibuchi T, Iwamoto A, Oka S, Hasegawa H, Okada S, Yasuoka A. The prevalence of opportunistic infections and malignancies in autopsied patients with human immunodeficiency virus infection in Japan. *BMC Infect Dis.* 14:229. Published online 2014 Apr.

Yajima K, Uehira T, Otera H, Koizumi Y, Watanabe D, Kodama Y, Kuzushita N, Nishida Y, Mita E, Mano M, Shirasaka T: A case of non-cirrhotic portal hypertension associated with anti-retroviral therapy in a Japanese patient with human immunodeficiency virus infection. *J Infect Chemother.* 20(9):582-5, 2014

Ogawa Y, Watanabe D, Hirota K, Ikuma M, Yajima K, Kasai D, Mori K, Ota Y, Nishida Y, Uehira T, Mano M, Yamane T, and Shirasaka T. Rapid multiorgan failure due to large B-cell lymphoma arising in human herpesvirus-8-associated multicentric Castleman disease in a human immunodeficiency virus-infected patient. *Intern Med.* 253(24):2805-9, 2014

Imahashi M, Izumi T, Watanabe D, Imamura J, Matsuoka K, Ode H, Masaoka T, Sato K, Kaneko N, Ichikawa S, Koyanagi Y, Takaori-Kondo A, Utsumi M, Yokomaku Y, Shirasaka T, Sugiura W, Iwatani Y, Naoe T. Lack of association between intact/deletion polymorphisms of the APOBEC3B gene and HIV-1 risk. *PLoS one.* 9(3):e92861. 2014.

渡邊 大

Yajima K, Uehira T, Otera H, Koizumi Y, Watanabe D, Kodama Y, Kuzushita N, Nishida Y, Mita E, Mano M, Shirasaka T: A case of non-cirrhotic portal hypertension associated with anti-retroviral

therapy in a Japanese patient with human immunodeficiency virus infection. *J Infect Chemother.* 20(9):582-5, 2014

Ogawa Y, Watanabe D, Hirota K, Ikuma M, Yajima K, Kasai D, Mori K, Ota Y, Nishida Y, Uehira T, Mano M, Yamane T, Shirasaka T. Rapid multiorgan failure due to large B-cell lymphoma arising in human herpesvirus-8-associated multicentric Castleman disease in a human immunodeficiency virus-infected patient. *Intern Med.* 253(24):2805-9, 2014

久慈直昭

嶋田秀仁、久慈直昭他。精液からの HIV 除去における密度勾配溶剤の影響。第 32 回日本受精着床学会学術講演会、東京、2014 年 7 月

吉村和久

泉福英信、富永 燦、丸岡 豊：HIV 感染者における口腔疾患発症予測因子の検討。第 63 回日本口腔衛生学会・総会、熊本、2014 年 5 月

泉福英信、有家 巧、富永 燦、吉村和久：HIV 感染者唾液を用いた口腔疾患発症予測因子の検討。第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2014 年 12 月

大北全俊

大北全俊：倫理/ethics に求められてきたもの - 海外での HIV/AIDS に関する倫理的議論の歴史的調査より。第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2014 年 12 月

鯉渕智彦

Gu L, Kawana-Tachikawa A, Shiino T, Nakamura H, Koga M, Kikuchi T, Adachi E, Koibuchi T, Ishida T, Gao GF, Matsushita M, Sugiura W, Iwamoto A, Hosoya N. Development and customization of a color-coded microbeads-based assay for drug resistance in HIV-1 reverse transcriptase. *PLoS One.* 9 (10):e109823. 2014.

Nakayama-Hosoya K, Ishida T, Youngblood B, Nakamura H, Hosoya N, Koga M, Koibuchi T, Iwamoto A, Kawana-Tachikawa A. Epigenetic Repression of Interleukin 2 Expression in Senescent CD4+ T Cells During Chronic HIV Type 1 Infection. *J Infect Dis.* 211(1):28-39. 2014.

Okame M, Takaya S, Sato H, Adachi E, Ohno N, Kikuchi T, Koga M, Oyaizu N, Ota Y, Fujii T, Iwamoto A, Koibuchi T. Complete Regression of Early-Stage Gastric Diffuse Large B-Cell Lymphoma in an HIV-1-Infected Patient Following Helicobacter pylori Eradication Therapy. *Clin Infect Dis.* 58(10):1490-1492. 2014.

仲倉高広

仲倉高広、下司有加、渡邊大、白阪琢磨：箱庭療法が奏功した HIV 陽性者の心理療法～広汎性発達障害のある HIV 陽性者の事例～。第 27 回日本エイズ学会・学術集会・総会。熊本、2013 年 11 月

仲倉高広：「精神的支援」ということばをめぐって臨床心理士が考えること。シンポジウム 8 (看護) HIV 陽性者にとって医療者による精神的支援とは？。第 27 回日本エイズ学会・学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

廣常秀人

大谷ありさ、仲倉高広、安尾利彦、森田眞子、速見佳子、鍛冶まどか、宮本哲雄、西川歩美、廣常秀人、白阪琢磨：初診時より 1 年間における相談行動と定期受診・抗 HIV 薬の飲み忘れに関する研究。第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2014 年 12 月

秋葉 隆

秋葉 隆、桃木久美子：透析患者における感染症対策-標準化と個別化-透析患者にとっての感染症のリスクの重さ、臨床透析(0910-5808)30 巻 7 号 Page733-738(2014.06)

菊地 勘、林 秀輝、秋葉 隆ほか：慢性透析患者に

おけ HBV サーベイランス、日本透析医学会雑誌(1340-3451)47 巻 Suppl. 1 Page557 (2014.05)

横幕能行

Watanabe T, Hamada-Tsutsumi S, Yokomaku Y, Imamura J, Sugiura W, Tanaka Y. Post-Exposure Prophylactic Effect of HBV-active Antiretroviral Therapy Against Hepatitis B Virus Infection. *Antimicrobial agents and chemotherapy.* 2014.

Shiino T, Hattori J, Yokomaku Y, Iwatani Y, Sugiura W. Japanese Drug Resistance HIVSN. Phylodynamic analysis reveals CRF01_AE dissemination between Japan and neighboring Asian countries and the role of intravenous drug use in transmission. *PloS one.* 9(7):e102633. 2014.

Imahashi M, Izumi T, Watanabe D, Imamura J, Matsuoka K, Ode H, Masaoka T, Sato K, Kaneko N, Ichikawa S, Koyanagi Y, Takaori-Kondo A, Utsumi M, Yokomaku Y, Shirasaka T, Sugiura W, Iwatani Y, Naoe T. Lack of association between intact/deletion polymorphisms of the APOBEC3B gene and HIV-1 risk. *PloS one.* 9(3):e92861. 2014.

佐保美奈子

佐保美奈子：病院職員対象の人権研修において、HIV/AIDS を取り上げる意義、人権教育研究 (14) : 119-124、2014 年

Yamada K, Saho M, Furuyama M, Tsubaki C : Measures to Train HIV Support Leaders in Osaka, Japan. The 35th International Conference of Human Caring in Kyoto, May 2014

井上洋士

井上洋士、戸ヶ里泰典、細川陸也、阿部桜子、板垣貴志、片倉直子、山内麻江、吉澤繁行、高久陽介、矢島嵩、若林チヒロ、大木幸子：HIV 陽性者の陽性判明後の性行動及び性の相談に関連した経験に関する調査研究。第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会、